

3年保育3歳児 もも組

平成26年10月15日(水)
在籍 18名
担任 谷澤千尋

1 主な活動 『お料理しよう(マット遊び)』(体育館)

2 幼児の実態 (9月上旬)

- (体を動かすことへの取組：◎ 遊び：○ 人との関わり：● 生活：☆ 学級で取り組む活動：□)
- ◎教師や友達と一緒に、かけっこをすることを楽しみ、合図を聞いて、思い切り走る姿が見られる。
 - ◎追いかけてっこでは、クマになりきった教師に追いかけることや触れ合うことを楽しみ、繰り返し遊んでいる。
 - はさみを使うことを楽しみ、食べ物に見立て画用紙を切ったり、お店屋さんになったりして遊ぶ姿が見られる。
 - 教師や友達と一緒に、バッグや時計、携帯電話などの同じ物を身に付けたり持ったりしながら、同じ場で遊ぶことを楽しんでいる。
 - ☆教師に認められることを喜び、身支度や所持品の始末など、自分で行おうとする姿が見られる。自分では難しいことがあると、「1番上のボタンを手伝って」と教師に言いに来て一緒に行っている。
 - ☆●友達と一緒に巧技台などの大きなものを運ぶことを楽しむ姿が見られる。
 - 学級のみんなでする遊びを楽しみにし、友達と触れ合う手遊びやリズムを喜んでいる。

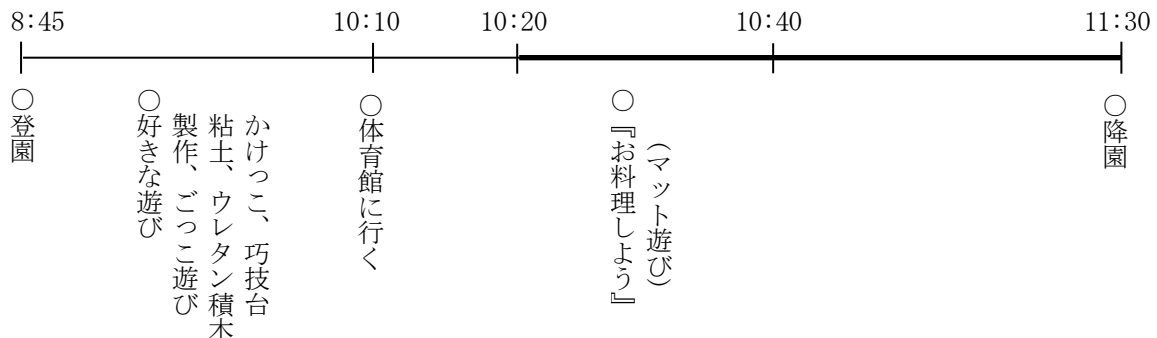
3 期のねらい (3歳児Ⅳ期 10月中旬～12月下旬)

- 自分のしたいことをしたり、気に入った幼児や同じ場で遊ぶ友達と関わったりして遊びを楽しむ。
- 学級のみんなで遊ぶ中で、自分なりの動きを楽しむ。
- 身支度や弁当の準備、片付けなど、身の回りの始末を自分でやろうとする。

4 週のねらい

- 教師や気に入った友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- なりきって遊ぶ中で、自分なりの動きを楽しむ。
- 衣服の着脱を自分でやろうとする。

5 一日の流れ



6 本時のねらい

- コロッケを作るというイメージの中で、自分なりに動くことを楽しむ。
- 教師と触れ合うことを楽しむ。

7 期待する主な動き

- ・しがみつ く ・つかむ ・転がる ・揺れる

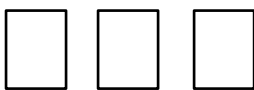
8 研究主題との関連

【研究主題に迫るための工夫点・具体的手立て】

- ・幼児が親しみをもちやすい、食べ物(お芋)のイメージで遊びを展開する。お芋になって畑から抜かれるイメージや、コロッケになって転がるイメージを通して、生活の中で経験の少ない「しがみつ く」「転がる」などの動きをできるようにする。…**イメージ** **目標**
- ・イメージをして遊ぶことをより楽しめるよう、場面によって教師がジョウロや手袋、エプロンを身に付ける。…**イメージ**
- ・なりきって動く幼児の自由な思いや姿を認め、一人一人の動きを認める。…**自由性・選択性**、**目標**

<環境図>…マットの配置

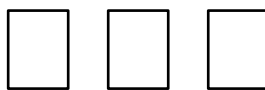
お芋ほり



洗い場

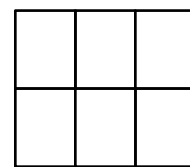
- ・幼児がお芋になり、畑に見立てたマットの好きなところにしがみつ き、教師に抜かれないようにする。
- ・抜いたら洗い場に行き、お芋を洗うイメージで友達と触れ合うことを楽しむ。

お芋の皮むき



- ・お芋の皮をむくイメージで、マットに横になって転がる。

コロッケになる



- ・マットの上で、体を丸くして揺れたり、転がったりする。
- ・マットを並べて配置することによって、友達をそばに感じられるようにする。

9 展開 体育館(10:20~10:40)

時間	幼児の活動	経験してほしい内容	ねらい達成のための教師の援助
10:20	○教師の話聞く	・みんなでお芋になって遊ぶことを知り、これからすることに期待をもつ	*イメージをもって動きを楽しめる援助 ・幼児がお芋になりきり、コロッケを作るイメージを楽しめるような声かけをする。 ・教師も一緒になりきって動く姿を見せる。 ・よりイメージを楽しめるように、教師が場面に応じてジョウロを持ったり、軍手やエプロンを身に付けたりする。
10:25	○輪になってリズム 「♪いもほれほーれ」 ○おいもほり (マットにしがみつ き、教	・教師や友達と触れ合う ・自分の体の部位を感じる ・おいもになって抜かれないようにする	・「♪いもほれほーれ、ほーれほれ」のところで自分の体や友達の体に触れてを楽しめるようにする。 ・幼児の腕が抜けないように注意を払いつつ、幼児がマットにしがみつ いてはなれないようにする

<p>10:40</p> <p>11:30</p>	<p>師に引っ張られないようにする) ○お芋を洗う (自分や友達の体をさする) ○お芋の皮むき (横になってマットで転がる)</p> <p>○コロッケになる (体を丸くしてマットで転がることを楽しむ)</p> <p>○できたコロッケを食べる (コロッケになった子どもたちを教師が食べる)</p> <p>○保育室に戻る ○お茶を飲む ○帰りの支度をする ○集まる ・手遊び ・うた ・絵本 ○降園する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しがみつく ・つかむ ・自分や友達の体を洗うイメージでさする ・マットで横になって転がる ・順番でやることが分かる ・コロッケのイメージで、マットの上で揺れたり転がったりすることを楽しむ ・コロッケが出来上がったことを喜び、教師と触れ合っ て遊ぶ ・階段の約束を自分なりに守ろうとする ・みんなと歌ったり、絵本を見たりすることを楽しむ 	<p>ことを楽しめるように、幼児に触れたり、引っ張ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師に抜かれた幼児がお芋の泥を洗い落とすイメージで触れ合っ て遊べるようにする。 ・1枚ずつマットを離して配置し、動きの流れが分かるように、ケンステップを目印として置く。 ・自力で転がれない幼児がいたら、動きの感覚が分かるよう、教師が幼児の体に触れて転がしたりする。 ・マットを並べて配置し、周りの幼児を感じられるようにする。 ・そばに友達がいることに気付かせ、幼児なりに安全に気を付けられるように知らせる。 ・コロッケができあがって嬉しい気持ち、楽しい気持ちに寄り添いながらスキンシップをとる。 <p>*動きの自由さや選択性が保障された環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児一人一人の動きを認めることで、幼児が自由な動き出せるようにする。 <p>*意欲がもてるような具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がモデルとなるような動きを見せたり、声かけをしたりすることで幼児が「やってみたい」という思いをもてるようにする。 ・「お芋ほり」「丸いコロッケ」などイメージがあることで幼児が「こんなふう にやってみよう」と思えるようにする。
---------------------------	---	--	--

10 評価

- コロッケを作るというイメージの中で、自分なりに動くことを楽しんで
いたか。
- 教師と触れ合うことを楽しんで
いたか。